

## Montessori ちゃいるどほうす中吉田事業報告

令和2年2月29日

地球の子ども株式会社

代表取締役 乾 泰代

### 1. 事業目的と役割

国から示された「子ども子育て新制度」に基づき、全ての子どもたちが平等に教育を受けられるように養護と教育の一体化を図りながら、環境を通して子どもと大人が主体的に関わる保育を行う。また、保護者との連携を図りながら共通理解を持って地域の子育て支援を充実させるために、必要な援助を行う。

### 2. 保育所の運営（入園時に配布した重要事項説明書に記載済）

(1) 沿革・経営組織

(2) 開所日

月曜日～土曜日

(3) 開所時間

7：30～18：30（延長保育18：30～19：00）

(4) 休園日

日曜日、国民の祝日及び休日

年末年始（12月29日～1月3日）

法人が特別必要と認めた日

(5) 年齢別入所児数（2月29日現在）

0歳児 12名

1歳児 14名

2歳児 11名

3歳児 12名

4歳児 9名

5歳児 10名 合計68名

(6) 職員数（2月29日現在）

22名（園長1名 副園長/言語聴覚士1名 常勤保育士9名 パート保育士5人  
保育補助2名 バイリンガル講師1名 調理員2名 保育事務主任1名）

(7) 職員資格等

- ・保育士・幼稚園教諭・小中高特別支援学校教諭・言語聴覚士・栄養士・調理師
- ・レクリエーションインストラクター・幼児体育指導者・モンテッソーリ教育教師
- ・子育て支援員・児童厚生指導員・社会福祉主事・児童福祉司・知的障害者福祉司
- ・家族療法カウンセラー・チャイルドカウンセラー・行動心理士・チャイルドコーチ

ングカレンダー・保育所長研修修了者・保育所主任保育士研修修了者  
・整備管理者・防火管理者・衛生推進者

(8) 職員会議の開催状況

組織としての各分野のリーダーの育成と配置、各職員が専門性を認識し、発揮できる役割分担の徹底と協力体制の弾力化を目標に以下の会議を開催。

- ・職員全体会議（年1回3月）
- ・業務会議（第4火曜日の午睡時）  
各行事の内容検討と反省、クラス毎の給食会議、月案に基づく環境会議、安全管理、ヒヤリハット、事例検討
- ・研修会議（第3火曜日の午睡時）  
モンテッソーリ教育基礎研修、月案に基づく環境研修会議
- ・給食会議（第3火曜日の午睡時、各クラス4か月に1度）
- ・研修会議（第3火曜日の午睡時、給食会議のないクラス）
- ・環境会議（第3火曜日の午睡時、給食・研修会議のないクラス）

(9) 職員研修についての取り組み

- ・円滑な運営と職員の質の向上を図る為、職員全員参加の職員研修及び園内外研修他、各種研修を積極的に実施。（研修実施報告については別紙参照）
- ・職員の研修参加費用、旅費、交通費全額支給、宿泊の場合出張手当あり
- ・毎月の園研修参加者には勤勉手当を支給（半日 2000 円、一日 7000 円）
- ・モンテッソーリ実践講師による保育現場での実践研修（毎月1週間）
- ・モンテッソーリ教師資格取得希望者には養成コース費用の全額補助

(10) 保育計画・記録について

一人一人の成長発達にあった環境づくりを達成する為に、個別の月報、週案、日報の作成。

- ・児童票に基づく月案作成（毎月）
- ・月案に基づく週案作成（毎週木曜日の午睡時）
- ・日報（観察記録0歳～2歳）
- ・午睡チェック表（毎日0歳児）
- ・活動記録日誌（3歳～就学前）
- ・児童票記録（毎月）
- ・ヒヤリハット
- ・安全管理 危機管理チェックリストリスト（毎月）
- ・次年度引継ぎ表の作成
- ・保育所児童保育要録（5歳児）

(11) クラス編成について

【1階フロアー】

環境との信頼関係・運動の獲得・言葉の獲得・身辺自立を目標に、個別の発達段階に合わせた保育を推進するため、個人差の大きい0歳から3歳までの成長を4段

階に分けて環境を構成し、個々の発達段階に応じた保育環境の実現を図る。

1 段階目 歩けるようになるまで

2 段階目 10 歩くらい安定して歩けるようになった頃

3 段階目 座って手指の活動ができるようになった頃、言葉が増える頃

4 段階目 着脱、排泄、食事など日常生活の自立に向かって、自分の事を自分でやりたい頃

1 階フロアーの歳児別グループ名は以下の通り。

プーポ組（0 歳児）ピッコロ組（1 歳児）ピッチーノ組（2 歳児）

## 【2 階フロアー】

自分のことが自分でできるようになり、集団でのルールがわかるようになってからそれまでに獲得した運動機能をより洗練し、お友達と一緒に知的好奇心を探求していく就学までの縦割クラス。モンテッソーリ実践講師による日常生活の練習・感覚教育・算数教育・言語教育・文化教育（音楽、美術、体育、理科、社会、食育）などの各分野の専門的な援助を行う。

2 階フロアーの歳児別グループ名は以下の通り。

マーレ組（3 歳児）テーラ組（4 歳児）チェーロ組（5 歳児）

## （1 2）給食の実施

（0 歳児）園児の発育状況に合わせ、離乳食から普通食への段階別給食移行の提供

（1 歳児以上）園児の発育状況に合わせ、完全給食の提供

（2 歳児以上）バイキング給食

（全園児）おやつ提供

（保護者）給食参観会

（特別給食）行事ランチ・年度末お弁当ランチ・戸外活動用お弁当

（給食献立表）毎月配布 本日の献立の写真掲示および明日の献立表示（毎日）

（食育）・給食説明：栄養士による献立（食品および栄養素）の説明

・食事が子どもの身体だけでなく健やかな心の発達を促す場であることを大切にす。

①食事が楽しい時間となるよう努める。

②離乳期を大切に過ごす。

③子どもが自分の量や、好みの選択ができるよう考慮する。

④子どもが「食べたくない」時があることを大切に考える。

⑤守るべき食事のルールを伝える。

⑥食べ物を粗末にしない。

⑦食事を処罰に使わない。

安心安全な楽しい給食の提供に努めるとともに、子どもが生活と遊びの中で意欲を持って食に関わる体験を積み重ねることで、食事を共に楽しみあう子どもに成長することを願って食育給食を推進した。

### (13) 健康管理

- ・ 医師による園児の健康診断 (村上小児科 (村上仁) 年2回)
- ・ 歯科医師による園児の歯科検診 (かめやま歯科 (亀山太一) 年2回)
- ・ 静岡県予防医学協会による園児尿検査 (年1回)
- ・ 歯科衛生士による歯みがき指導 (年1回 3歳児以上)
- ・ フッ化物洗口 平日給食終了後 (4歳以上)
- ・ 身体測定 毎月1回
- ・ 職員の定期健康診断 年1回
- ・ 職員の検便検査 月1回  
(赤痢菌・サルモネラ菌・病原性大腸菌0-157・腸チフス・パラチフス)

### (14) 保護者との連携

保育は保護者と共に子どもを育てる営みであり、子どもの24時間の生活を視野に入れ保護者の気持ちに寄り添いながら家庭との連携を密にすることが大切である。積極的に乳幼児の子どもの育ちを支え、保護者の養育力向上につなげていけるように以下の方法で『食事』『生活リズム』『衛生』『健康』『子育てについての精神的不安解消』のアドバイスをする。

- ・ 相談室の利用 (常時)
- ・ ホームページでの情報公開と更新 (常時)
- ・ 待合室の掲示板での情報公開と更新 (常時)
- ・ 連絡帳 (随時)
- ・ 園だより (月1回)
- ・ クラスだより (季節ごと年4回)
- ・ 子育て参考資料の配布 (不定期)
- ・ その他お知らせ (不定期)
- ・ 苦情解決システムの継続
- ・ 地域の各機関との連携

### (15) 地域との交流

- ・ 近隣住人・消防署・美術館・日本平動物園・ショクザイ・スター精密
- ・ 海外からの視察訪問受け入れ
- ・ 保育実習生や職場体験学習、子育て支援員研修、ボランティア活動の受け入れ  
(小中高校生・大学生・専門学生等)

### (16) 補助事業

- ・ 延長保育 18:30~19:00

### (17) 施設の整備・管理・安全点検

- ・ 各クラス保育室 音楽室 カプラ室 美術室 日本文化の間 生物室 図書室  
おままごとの部屋 園庭の整備
- ・ セコムセキュリティーサービス

- ・防犯カメラ（玄関前駐車場、園庭、ホール、調理室、各クラス）計 8 か所
  - ・1 歳児クラス手洗い場の設置
  - ・自転車置き場通路の施錠（防犯対策）
  - ・さすまた完備
- (18) 機能強化推進事業 総合防災対策のための必要な修繕・物品管理
- ・食料・水（全園児・全職員 3 日分一昨年度購入済み）
  - ・避難用具・災害時用品
  - ・移動車 2 台 ベビーカー 1 台（2 人乗り）
  - ・AED の設置 1 台（毎年更新）
  - ・その他カセットコンロ等一昨年度購入済み
  - ・保温マット 3 畳 職員用ヘルメット 幼児用防災頭巾 防滴メガホン  
非常用野菜スープ（補助金より購入）
- (19) 非常災害防止の実施計画
- ・避難訓練 毎月一回（地震 火災 不審者） 総合防災訓練年 1 回
  - ・交通訓練 園外活動時毎回実施
  - ・交通安全教室（2 階クラス）
- (20) 第三者委員会
- ・掲示板・ホームページによるご意見・ご要望・苦情についての窓口  
件数 1 5 月 15 日意見箱  
大津市保育園児交通死傷事故について  
回答：待合室にて掲示 〈別紙参照〉
- (21) 感染症予防対策
- ・次亜塩素酸を使い床、トイレ、教具の消毒（1 日 2 回実施）
  - ・おむつ交換時、使い捨て手袋を使用
  - ・紙おむつ自園処分（持ち帰りなし）
  - ・加湿空気清浄器を各クラスに設置 常時稼働
  - ・温湿度計
  - ・洗濯物を分けて洗濯（床拭き、床以外、次亜塩素酸用雑巾）
  - ・細めな水分補給の実施
  - ・手洗い、うがい指導の実施
- (22) 駿河区消防署監査（4 月）
- 防火管理者 園長 遠藤千砂子  
須藤商会の第三者確認済み
- (23) 行政監査（1 月）
- 指摘事項なし

### 3. 保育理念

『Montessori ちゃいるどほうす』は生命の保持と情緒の安定を土台とし、3つの視点、保育指針の5領域の相互関係、小学校までに育ってほしい10の姿までの総合的関わりを重視している。モンテッソーリ教育法と自然体験活動を融合させた内容で、世の中にあるありとあらゆることに対しての子ども達の興味関心を大切に、実際に体験することで、全ての子どもが持っている『生きる力』を子ども達自身が発見し、育成していく場を愛と知識を持って提供した。

### 4. 令和元年度保育目標について

職員研修で、各クラス毎「ちゃいるどほうすの願う姿～人格形成された大人の姿～」について話し合い意見をまとめる。全職員で会議をし、どんな大人に育ってほしいか、意見交換と方向性を確認し理解を深めた。

1. 自分の意見がはっきりしている
2. 自分で決めることができる
3. 自分の力で生きていくことができる
4. 自分のことが好き 自己肯定感が高い
5. 他者を思いやり、命を大切にする

この5つのまとめた意見を踏まえ、どんな子どもに育ってほしいか、再度意見交換をしまとめた。

- ・「自己肯定感：自分が好き」「チャレンジ」「自信」「主体的」
- ・「自立心」「自分のことは自分で」「自分で考えて行動」「自分の思いや意見が言える」
- ・「ありがとう、ごめんなさい」「思いやり」「やさしさ」「豊かな心」

この保育構想より、これからちゃいるどほうすに最もふさわしい保育目標を立てていく。

### 5. 特別教育

日々の養護的な関わりをベースに以下の教育内容を実施。

#### (1) 自然教育

子どもたちが自然の不思議さや素晴らしさに出会い、発見する機会をできるだけ多く提供できるよう、生物室や畑や毎日の散歩を設定。ありのままの自然を体験しながら、自然の一部である自分を愛する心と尊い自然を守る気持ちを育む。

#### \*生物室\*

2階の生物室で、園庭で見つけたバッタやおおむし、ダンゴ虫等様々な生物に興味、関心を持ち、子どもたちが「生物系」「生物係」の役割をもって飼育。

園庭隅には「生物のお墓」スペースがあり、「生」から「死」まで責任をもってお世話する気持ちを育む。

- ・魚類 金魚 メダカ
- ・両生類 ウーパールーパー
- ・昆虫類 カブトムシ クワガタ

- ・鳥類 セキセイインコ
- ・その他 カタツムリ サワガニ ザリガニ

＊畑＊

- 2月 ジャガイモ植え付け：(3歳児以上)
- 4月 夏野菜の植え付け：トマト・きゅうり・オクラ・しそ (3歳児以上)
- 5月 ジャガイモ堀り：(1歳児以上)
  - クッキングでポテトサラダに使用予定 (3歳児以上)
  - さつまいも植え付け：(3歳児以上)
- 6月～ 夏野菜収穫：トマト 園庭でそのまま試食
- 8月 きゅうり 園庭でそのまま試食
  - クッキングでたたききゅうりにして試食 (1、2歳児)
  - オクラ 茹でて試食
  - しそ しそジュース作り (5歳児) 試飲 (3歳以上)
- 9月～ 冬野菜植え付け：ブロッコリー・白菜・キャベツ・カリフラワー (4歳児)
- 10月 さつまいも堀り：(1歳児以上)
  - クッキングでスイートポテトに使用予定 (1、2歳児)
  - 焼き芋大会 焼き芋試食 (全クラス)
  - ◇つるでクリスマスリース作り (3歳児以上)
- 11月～ 冬野菜収穫：ブロッコリー カリフラワー 茹でて試食
- 12月 キャベツ クッキングでお好み焼きにして試食 (1、2歳児)
  - 白菜 ちぎって塩昆布と混ぜて浅漬けで試食 (1歳児以上)

＊花壇＊

子どもたちが自由に摘んで、保育室に飾りやすい草花の種類を主体に植栽

→摘んだあとも次々につぼみがつく、茎が長い、茎が強い、開花時期が長い

- ・春 チューリップ、ムスカリ、ビオラ、姫金魚草
- ・夏 マリーゴールド、日日草、金魚草、ジニア、トレニア、ブルーサルビア
- ・秋～冬 マリーゴールド、ジニア、千日紅、コリウス、
- ・通年 ハーブ (ローズマリー、レモンバーム、タイム) 触って香りを感じられる

12月は、子どもと一緒にチューリップの球根を植える

外の壁面下は危険防止も含めプランターを並べる (通年常緑の宿根草を主体に植栽)

＊散歩＊

中吉田公園、中ノ郷公園、谷田宮の後公園、谷田芝生広場、県立美術館、熊野公園、国吉田公園、瀬名川南公園、瀬名川公園、ひょうたん塚公園、清水山公園、園周辺、静鉄電車の線路まで

## (2) モンテッソーリ教育（全クラス）

子どもの発達課題は、運動の獲得・言葉の獲得・意志の発達・知性の発達・社会性の発達・感覚の発達等、共通している。それらの発達課題は、大人が教えるのではなく子どもが興味のあるものに自分から体を使って感じて動きを通して獲得されていく。

発達の課題は、時期と順番があらかじめ子どもの遺伝子にプログラムされていて、子どもに内在している『自己教育力』により、適切な環境に関わることによって健やかに成長していく。このベースになる考え方は、マリア・モンテッソーリが120年以上前に子どもを観察し子どもから発見したことだが、現在は、医学や科学が進歩し子どもは安心安全な環境との適切な関りによって成長するという事が証明され、現在では、世界共通の教育の考え方になっている。

子どもの発達課題は共通していても、発達速度や個々の興味関心は様々なので今年度も『モンテッソーリ教育法』の考え方をベースに子どもが主体的に個々の発達に見合った環境と関わりながら成長できるようにという願いを込めて環境を整えた。

毎日の生活の中で、発達段階に応じて以下の分野の活動を展開した。

- ・日常生活の練習・感覚教育・言語教育・算数教育・文化教育
- ・平和教育・音楽・美術・造形

## (3) バイリンガル教育（全クラス）

日々、進化していく世界を感じ、新しいものや考え方を受容し応答しながら、あらゆる違いを受け入れられるたくましい精神を育む。バイリンガル教育導入により言葉の違い、文化の違い、感じ方の違い、考え方の違いなど自分と他者のいろいろな違いを体験しながら豊かな心とグローバルな平和教育を目指して取り組む。

## (4) プログラミング教育

プログラミング教育は、子どもたちが想像力を働かせながら自分なりに目的やゴールを決め、それを達成するために必要な、一つ一つの動きの組み合わせを順序立てて論理的に考える力を高めていくことを目標としている。園では生活の中でお話作りや絵本などを含めた遊びを通して想像力を育むことを基本とし、プログラムの対象の動きを自分自身でイメージするための自己認知力を高める運動や、実際にコマンドを組み合わせるロボットの動きをプログラムする体験のできる環境を整えていく。

## (5) スイミング

小学校までに『育ってほしい10の姿』をベースとした幼少期の取り組みとして年間20回程度中田スイミングスクールにて水泳指導を受ける。健康な心と体・自律心・道徳心の芽生え・規律意識の芽生え・いろいろな人とのかかわり・自然とのかかわり・生命尊重・公共心・言葉による伝え合い・豊かな感性と表現などを育てる。

(6) 日本文化体験プログラム (2階クラスとピッチーノクラス導入)

華道、書道、茶道等日本独特の美しく豊かな文化を体験し、和を尊ぶ心を養う。

(7) クッキング (歩けるようになって手が使えるようになってから)

週に2回のクッキングの活動では以下の物を作りおやつなどで試食。

バナナの皮むき、みかんの皮むき、枝豆の皮むき、ゆで卵の殻むき、クラッカーサンドジャムサンド、梅ジュース、シャーベック、スイートポテト、たたききゅうり、ホットケーキ、クッキー、カレーライス、みかんジュース、ヨーグルトカップケーキ、お好み焼き、おにぎり、その他庭で収穫した野菜で即席漬物等。

(8) リトミック (2歳児頃から)

楽しく音楽と触れ合いながら、生物の進化に学んだ“さくらさくらんぼリズム”により子ども達の心と体が、身体的、感覚的、知的にも、これから受けるあらゆる教育を十分に吸収し、それらを足がかりに大きく育つ可能性を広げる。

(9) リーベ式運動あそび

外部指導者によるリーベ式運動遊び (3歳児以上) を取り入れる。幼児期に必要なとされる基本的な動きを組み合わせた運動を行うことに加え、楽しい雰囲気の中で各クラス毎、テーマに沿った動きを身体で表現することにより脳を活性化させる。その中で子ども達が自発的に次の動きを考え、想像力を養いながらストーリーを繋げていく。アクティブラーニングを培い、1クラス30分間、活発な動きを持続する。日々の保育の中にこの運動遊びの要素を取り入れ実践を継続することで体力・運動能力の向上を目指す。

(10) 発達支援 (個別の支援の検討・計画・実施・反省)

すべての子どもにそれぞれ個性があるように、その成長の仕方も様々である。同じ環境であっても困り感を抱え、それをうまく表現することが苦手な子どももいる。保育園という集団生活の中で、個々の子どもの成長や気持ちに寄り添い、子どもが自立していくために必要な支援を行う。

(11) 口腔機能改善支援

日本語での会話に必要な発音は、個人差はあるものの就学前までに習得されるが、何らかの原因で正しい発音の習得に誤りや遅れが見られる子どもがいる。子どもの発音の誤りが日常生活に支障を来したり自己肯定感を損なったりする心配がある場合、もしくは、子ども自身が自分の発音の誤りに気づき、改善に対して前向きな気持ちがある場合に、保護者、保育士、指導担当との相談の上、個別の発音指導を行う。

## 6. 特別教育会計報告

### (1) モンテッソーリ教育費会計

(収入) 保護者徴収費	<u>784,000円</u>	(協力金にて毎月一人1,000円)
(支出) 外部講師代	1,530,000円	
教具代金	230,000円	
		(音感ベル・感覚教具一式・プログラミング教材他)
職員研修参加費	240,000円	
支出合計	<u>2,000,000円</u>	

収入－支出＝ －1,216,000円 (園負担)

### (2) 度バイリンガル教育費会計

(収入) 保護者徴収費	<u>784,000円</u>	(協力金にて毎月一人1,000円)
(支出) 講師代	<u>2,235,000円</u>	

収入－支出＝ －1,451,000円 (園負担)

### (3) スイミング徴収費会計

(収入) 保護者徴収費	<u>400,800円</u>	(一人一回1000円)
(支出)	<u>400,800円</u>	

収入－支出＝ 0円

### (4) 日本文化体験プログラム会計

(収入) 保護者徴収費	<u>0円</u>	
(支出) 外部講師代	<u>117,000円</u>	
教材(材料)費	<u>91,516円</u>	

収入－支出＝ －208,516円 (園負担)

### (5) リーベ式運動遊び会計

(収入) 保護者徴収費	<u>0円</u>	
(支出) 外部講師代	<u>280,980円</u>	(園負担)

収入－支出＝ －280,980円 (園負担)

## 7. 主な行事

- 4月 幼児動物教室（チェーロ） こいのぼり集会
- 5月 親子遠足 日本平動物園（乳児組） 蓮華寺池公園（幼児組 観光バス利用）
- 6月 保育・給食参観会  
台湾より視察訪問
- 7月 七夕集会 七夕・交通機関を利用したの清水の七夕見学（幼児組）  
交通安全教室・花火教室（幼児）
- 8月 スイカ割り大会 草薙と合同流しそうめん大会
- 9月 草薙と合同乳児親子リクリエーション大会（0，1歳児）  
地域子育て支援事業  
『笑顔で子育て ゆっつりのんびり おやこでふれあい遊び』
- 10月 粘土教室（4歳児以上） 環境学習（3歳児以上） ハロウィン
- 11月 草薙と合同運動会（中吉田公園）（2歳児以上） 粘土教室（幼児組）
- 12月 クリスマス会 おにぎり散歩（幼児組）  
地域子育て支援事業『えいごdeベビーリトミック』
- 1月 鏡開き 節分集会
- 2月 はばたきの会 歯みがき巡回指導（3歳児以上）
- 3月（予定）ひな祭り お弁当ランチ お別れ遠足 卒園式

## 8. 新たな取り組みの実施内容

- ・年中クラスからのフッ化物洗口うがいの実施
- ・幼児クラス はいチーズ企画の参加
- ・幼児クラス 音楽室の設置（様々な楽器体験・合奏）
- ・幼児クラス 環境学習（静岡リサイクル協会）
- ・幼児クラス 歯みがき巡回指導（3歳児以上） 染めだし（4歳児以上）
- ・年長クラス 動物教室（日本平動物園）の参加
- ・交通安全教室、花火教室、粘土教室の実施（幼児クラス）

## 9. 令和2年度の新たな取り組みの計画

- ・自然教育の充実
- ・園外活動の充実
- ・積み木教室の実施
- ・園庭クローバー植替え
- ・教材室 文化の棚の整備
- ・バイリンガル教育 フォニックス導入
- ・リーベ式運動あそびの充実
- ・プログラミング教育 プログラミングロボットの充実